

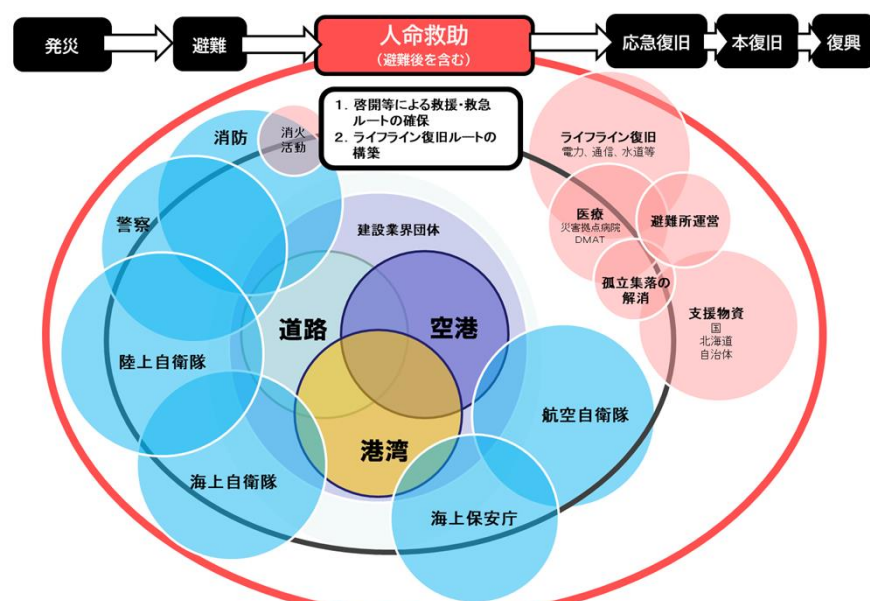
## 検討概要

北海道の地域特性や積雪寒冷地特有の課題を踏まえて、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震による地震・津波発生時において関係機関等が連携した迅速かつ効率的な初動対応に必要な検討を行いました。

## 調査の背景

- 北海道では、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震による被害想定が(特に冬期発災時に)甚大かつ切迫している。
- 海に囲まれた北海道では、本州等からの応援に時間を要することから、道内の人員、資機材だけで救援・人命救助、応急復旧を行う前提での検討が必要。
- 発生直後に必要な道路・港湾・空港それぞれの啓開計画に横断的なタイムラインがなく、関係機関等と連携した初動対応に課題がある。
- 令和6年能登半島地震の振り返りでは、災害対応力強化の今後の方向性として「陸海空が連携した啓開体制、物資輸送の確保」が示された。

陸海空のあらゆる空間から関係機関が連携した初動対応が必要



ベン図：初動期の連携のイメージ

## 主な調査内容

- 人命救助(災害関連死含む)に資する初動対応を実施するために、防災関係機関が連携したタイムラインを作成し、図上演習で検証した。

### 陸海空の既計画を統合したタイムライン素案を作成

道路啓開や航路啓開等の既計画を統合したタイムライン素案を作成

- 陸：道路(北海道道路啓開計画 等)
  - 海：港湾(広域港湾BCP 等)
  - 空：空港(空港BCP)
- 既計画を一つに統合し  
タイムライン素案作成

### タイムライン案の実効性向上のために図上演習を開催

防災関係機関が参画した図上演習にてタイムライン素案を発動し実効性を検証した。議論の結果をタイムライン素案に反映した

- ・図上演習in釧路市  
参加者 釧路市、14機関、計96名



- ・図上演習in苫小牧  
参加者 苫小牧市、12機関、計63名



議論を反映

タイムライン案

### タイムライン案の完成(随時アップデート)

各機関の事後防災行動計画のエッセンスとして活用